

「緊急地震速報を適切に利用するために必要な受信端末の機能
及び配信能力に関するガイドライン（案）」の概要

1 ガイドラインの目的

受信端末の利用者が、地震動予報業務の許可を受けた事業者(以下「許可事業者」という。)による緊急地震速報を意図どおりに利用したり、緊急地震速報の訓練を容易に行えるための参考となる事項を示すことで、緊急地震速報の適切な利用の拡大を促進し、もって、地震災害の軽減に資することを目的とする。

2 ガイドラインの対象となる端末・配信

対象となる受信端末及び配信は、許可事業者による緊急地震速報の提供に用いられるものに限る。

テレビ、ラジオ、同報機能を持つ携帯電話のように、緊急地震速報(警報)を広く一般に知らせる装置については、本ガイドラインの対象外とする。

なお、「ラジオの緊急地震速報(警報)のNHKのチャイム音を検知した後に、ラジオの音量を上げて知らせたり、館内放送設備を制御する装置」は、利用者が緊急地震速報(警報)を積極的に利用する目的で導入するものであり、受信端末との類似点があることから、製造・販売を行う事業者が利用者に対して行うべき公開・説明する事項を別に示す。

3 ガイドラインの内容

ガイドラインには、「端末利用者に推奨する事項」として、緊急地震速報を適切に利用するために、端末利用者に推奨する措置と緊急地震速報の試験・訓練のあり方について示す。

「端末利用者に推奨する事項」については、緊急地震速報の利用方法によって差があるため、利用方法を影響の度合いや人の介在状況の観点から、

- A 機械・館内放送設備等の自動制御
- B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御
- C 端末の報知による人の危険回避

の3つに大別して示す(別紙1)。

また、端末利用者が上記の利用目的に沿って端末や配信を選択したり、緊急地震速報を利用するにあたっての参考となるよう、配信事業者や許可事業者に公開・説明を求める受信端末の機能や配信の能力を「端末・配信に求められる機能・能力」に示す。

ガイドラインの目次

1 ガイドラインの概要

- 1 - 1 背景
- 1 - 2 目的
- 1 - 3 対象
- 1 - 4 主な用語

2 端末利用者に推奨する事項

A 機械・館内放送設備等の自動制御

- (1) 利用方法
- (2) 端末利用者が施す措置
 - 機械等の制御に用いる場合
 - 不特定多数向けの館内放送に用いる場合
 - 以外の館内放送に用いる場合
- (3) 実施すべき試験・訓練

B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御

- (1) 利用方法
- (2) 端末利用者が施す措置
 - 機械等の制御に用いる場合
 - 不特定多数向けの館内放送に用いる場合
 - 以外の館内放送に用いる場合
- (3) 実施すべき試験・訓練

C 端末の報知による人の危険回避

- (1) 利用方法
- (2) 端末利用者が施す措置
 - 強い揺れが予想されることのみを端末に報知させる場合
 - 以外の内容についても端末に報知させる場合
- (3) 実施すべき試験・訓練

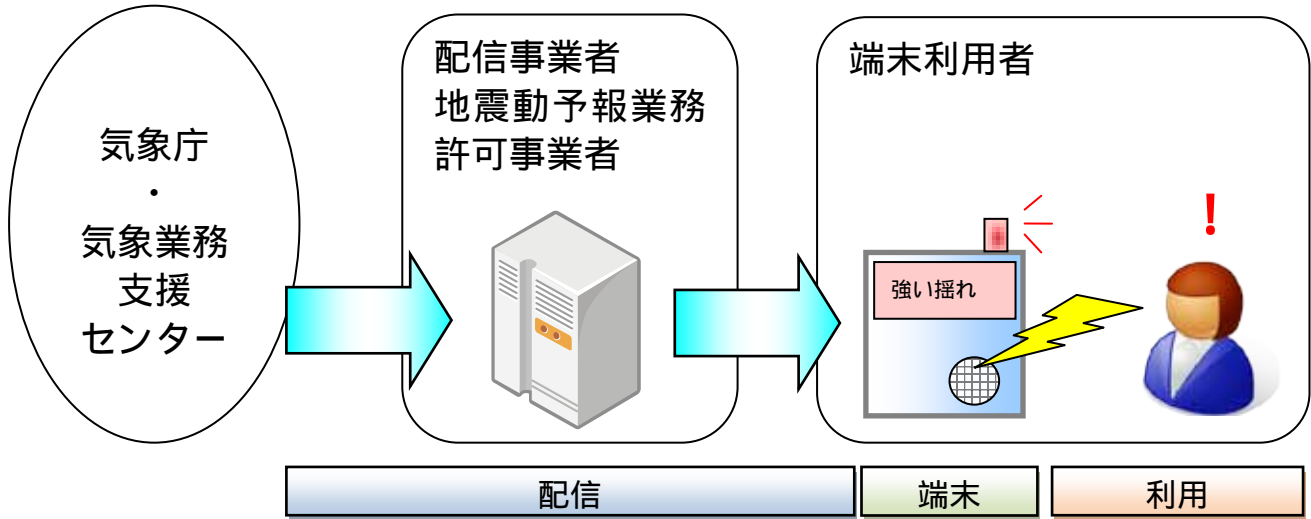
3 端末・配信に求められる機能・能力

- (1) 端末基礎機能
- (2) 地震動予報機能
- (3) 報知・制御出力条件設定
- (4) 配信・許可事業者の能力

4 措置・機能・能力についての詳細説明

端末利用者がとる措置の一覧表の一覧表

ガイドラインの記載内容

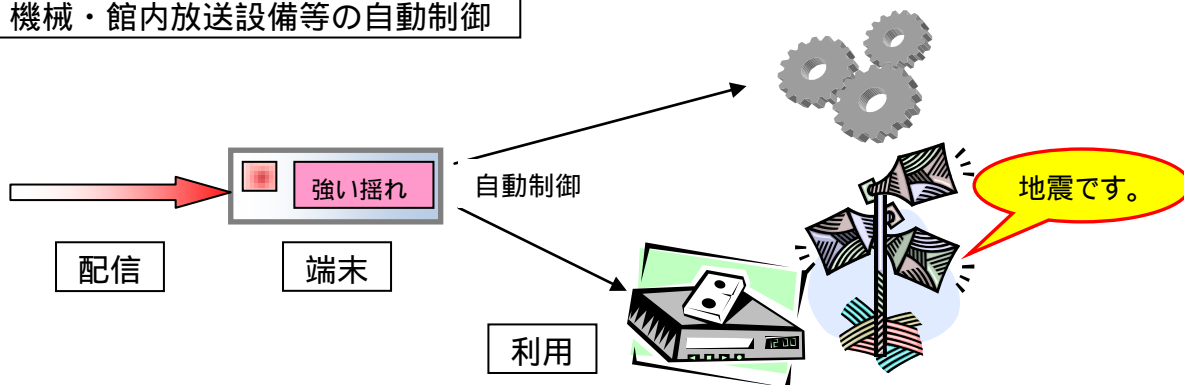


| 端末・配信に求められる機能・能力 (下記の項目について端末利用者に公開・説明) | | 端末利用者が施す措置 (推奨する措置) |
|---|---|--|
| <p><u>配信・許可事業者の通信能力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・気象庁から端末まで配信をとぎれさせないような対策 ・気象庁から端末の間に介在する配信・許可事業者や回線の種類 ・サーバーの設置環境 ・端末毎に接続確認 他 <p><u>事業者によるサポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者への連絡 ・端末の利用方法に関する助言 ・配信に用いる回線の品質やリスクの説明 ・端末を接続できる配信・許可事業者及び配信・許可事業者が接続できる端末 ・気象庁が発表する緊急地震速報の内容変更への対応 他 | <p><u>端末基礎機能</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サーバーとの接続監視、通信障害の検知 ・最初の報知を開始または制御信号を送出するのに要する時間 他 <p><u>地震動予報機能</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・震度や猶予時間の予想場所 ・予報履歴の保存・管理 他 <p><u>報知・制御条件設定機能</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・報知音 ・緊急地震速報の精度情報による動作 ・ある地震の緊急地震速報を受信した後、続けて別の地震の緊急地震速報を受信した場合の動作 ・キャンセル報、テスト報、訓練を受信した場合の動作 他 | <p><u>配信・許可事業者の選択</u></p> <p><u>回線や端末に施す措置</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震化、無停電化 ・回線の選択 他 <p><u>以下の項目の設定</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想した震度や猶予時間の閾値 ・精度情報 ・深発地震 ・放送や報知内容 ・緊急地震速報で制御を行った後に同一地震もしくは別の地震について提供される緊急地震速報 ・キャンセル報 ・テスト報、訓練報 他 |

行うべき試験・訓練

端末が持つ試験・訓練機能やテスト報・訓練報を受けての試験・訓練を行う。

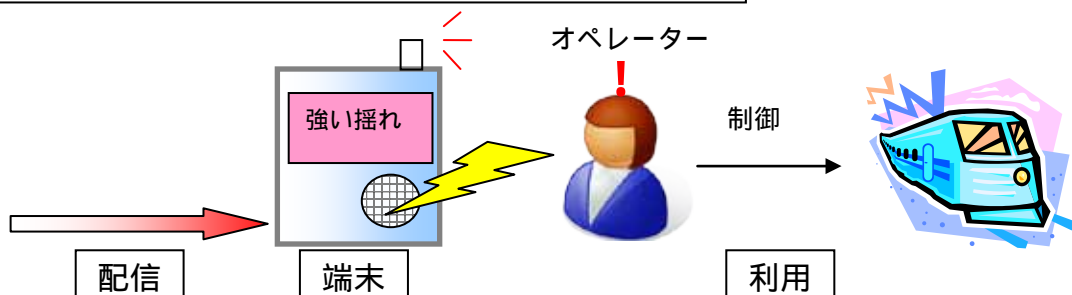
A 機械・館内放送設備等の自動制御



利用例

- ・列車、エレベーターの緊急停止
- ・工場等における生産ラインの停止
- ・工場等における危険物流出防止装置の起動
- ・集客施設など、不特定多数向けの館内放送
- ・工事現場、工場内の従業員への館内放送

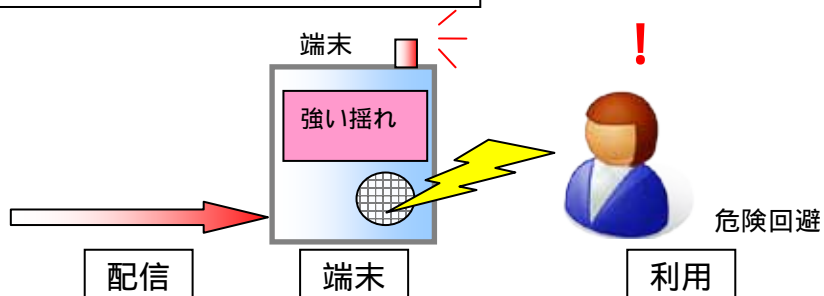
B オペレーターを介した機械・館内放送設備等の制御



利用例

- ・列車の緊急停止
- ・工事現場での重機の制御
- ・医療機関における手術の一時中断や医療機器の操作中断
- ・集客施設など、不特定多数向けの館内放送
- ・工事現場、工場内の従業員への館内放送

C 端末の報知による人の危険回避



利用例

- ・家庭や小規模な事業所等での危険回避を促す報知